

吾妻郡中之条町は小淵元首相の地元、私が小学生でタバコが配給制だったころ、リックを背負い汽車にのり何度も専売公社にタバコの仕入れにいったし、大人になってからも車で何度も通っている。

ナビが中之条のはずれで「右に行け」といっている四万温泉方面だ。左折し、吾妻町に行かなければならない。運転手の息子は「ナビのとおりに行く」おやじはガタガタうるさい、こんな気持ちだろうと思ったので黙ることにした。いずれナビも左折の道を見つけるだろう。車は街を過ぎ家もまばらになり、前を走る数台の車も右や、左の家に飛び込み消えていった。

道は細くなり唯一望みの左折道はない1本道で林の中に入り勾配もあがり車は独走態勢で山登りこれは明らかに迷子状態Uターンも厳しい道路幅、引き返す気にならない。もうどうでもいい行くところまで行こう。

「箱根の山は天下の嶮」を歌いながらも先にも後にも車はなく行き会う車もなく心細くなる。交互通行の場所に出くわす1分40秒の待ち時間、崖崩れの補修工事だ、車はまだまだ登っていく、また交互通行工事現場の工事担当者達は昼食なのか誰もいない。

しばらく行くとさしもの峠もようやく下りだした。

下った先は中之条と合併した六合村そして「小雨」ここは母の生まれ育ったところ、お嫁にいくときは馬に乗って行ったといっていたが正に「雨降りお月さん」のようだ。風情がある。凸凹路を20キロほど、かなりだ

車は中之条から逆V字型に山を越えJR長野原駅を過ぎたあたりに出た。そのため吾妻町もヤンバダムも目にはなかった。

歴史

1900年 (明治 33 年) に草津村 から分かれ村制 を施行した。

1889年 (明治 22 年) の合併 により草津村となる以前にはそれぞれ独立した村であった小雨、赤岩、生須、太子(おおし)、日影、入山の 6 つの大字 を合わせたことから「六合」の名が生まれた^[1]。



この峠はロマンチック街道だそうだ。草津にもロマンチック街道があったがつながっているのかな？別名牧水街道ともいうらしい。若山牧水の碑があるという話だがどこにあったのかわからないままだった。そういうことなら今一度山登りをして牧水の碑を探しに行ってみたい。

牧水といえば「白鳥はかなしからずや 空の青 海の青にも染まず漂う」この歌だけ知っているが、こんな山の中でこの歌はできないだろう。どんな歌を碑に刻んでいるのか是非知りたい。

噴火情報レベル2の浅間山は噴火もしないでおとなしくしている。昨日泊まったホテル軽井沢1130は浅間山から10キロ前後の位置にあるが、噴火せずに助かった。天明3年：江戸時代の大爆発は溶岩が大量に流れ出て嬬恋村かん原地区は全滅し、「鬼押し出」を造った。この時は吾妻川をせき止め、せきとめ湖ができそして決壊し、大きな被害があったという。今日は伊香保温泉の天坊に泊まった。





西之島は造山活動が活発、半分は婦恋村の浅間山は
レベル2だが噴火する気があるのかないのか